

# 経済・金融 フラッシュ

## 【3月米個人所得・消費支出】

消費支出(前月比)は+0.4%。3ヵ月ぶりに消費の伸びが加速

経済研究部 主任研究員 窪谷 浩

TEL:03-3512-1824 E-mail: kubotani@nli-research.co.jp

### 1. 結果の概要: 名目個人消費支出は市場予想に一致も、個人所得は予想を下回る

4月30日、米商務省の経済分析局(BEA)は3月の個人所得・消費支出統計を公表した。個人所得(名目値)は前月比+0.3%(前月改定値:+0.3%)となり、+0.4%から下方修正された前月に一致、市場予想(Bloomberg集計の中央値、以下同様)の+0.4%を下回った。個人消費支出(名目値)は前月比+0.4%(前月改定値:横這い)と、+0.2%から下方修正された前月を上回り、市場予想(+0.4%)に一致した(図表1)。価格変動の影響を除いた実質個人消費支出は前月比+0.4%(前月改定値:▲0.2%)と、こちらは横這いから下方修正された前月は上回ったものの、市場予想(+0.5%)は下回った(図表5)。貯蓄率<sup>1</sup>は3.1%(前月:3.3%)と前月から低下した。

価格指数は、総合指数が前月比横這い(前月:+0.2%)と前月から伸びが鈍化、市場予想(横這い)には一致した。また、変動の大きい食料品・エネルギーを除いたコア指数は、前月比+0.2%(前月値:+0.2%)と、こちらは前月、市場予想(+0.2%)に一致した(図表6)。前年同月比では、総合指数が+2.0%(前月値改定値:+1.7%)と、+1.8%から下方修正された前月を上回った一方、市場予想(+2.0%)に一致した。コア指数は+1.9%(前月値:+1.6%)と、こちらも前月を上回ったものの、市場予想(+1.9%)に一致した(図表7)。

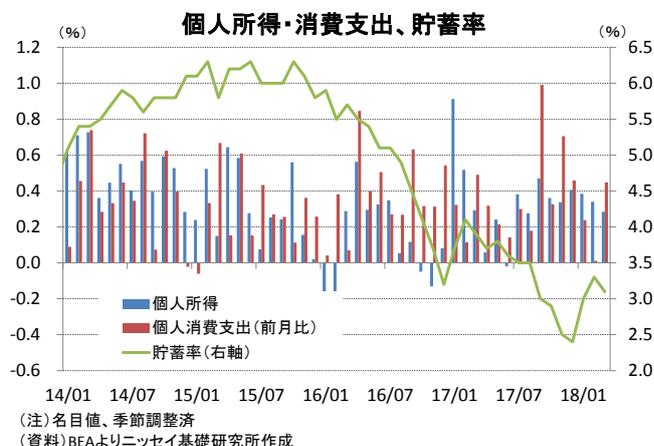
### 2. 結果の評価: 3ヵ月ぶりに消費の伸びが加速

名目個人消費(前月比)は、17年12月の+0.5%から2ヵ月連続で伸びが鈍化していたものの、3月は3ヵ月ぶりに伸びが加速した。

一方、所得対比でも3月の個人消費が所得の伸びを上回ったことから、貯蓄率は3ヵ月ぶりの低下となった。

先日発表された1-3月期の実質個人消費は、前期比年率+1.1%(前期:+4.0%)と前期から大幅な伸び鈍化となったが、3月の個人消費が漸く明確な回復を示したことから、4-6月期

(図表1)



<sup>1</sup> 可処分所得に対する貯蓄(可処分所得-個人支出)の比率。

は個人消費の伸び加速が期待できると言えよう。個人消費を取り巻く環境は労働市場の回復持続や、税制改革に伴う可処分所得の増加など、消費の追い風となっており、消費低迷が長期化することは考え難い。

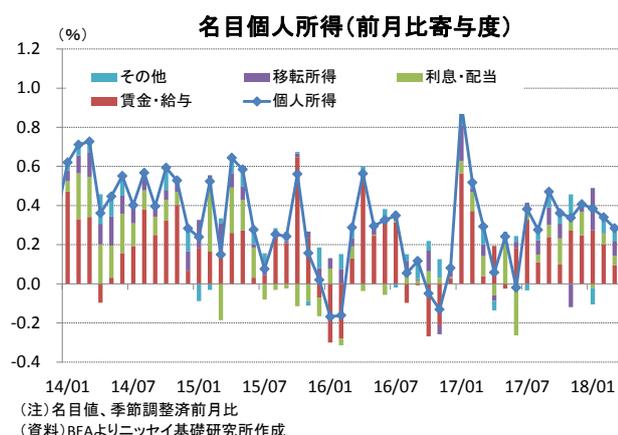
一方、物価は総合指数（前年同月比）がFRBの物価目標（2%）に一致した。これは17年2月以来である。また、携帯電話会社が料金プランを変更した影響で17年3月以降に物価が▲0.2%ポイント超押下げられた特殊要因が剥落したこともあって、コア指数も前月から明確に伸びが加速しており、物価目標の一步手前まで上昇した。原油価格が上昇していることに加え、労働需給のタイト化により、賃金上昇の加速が見込まれることもあり、物価は上昇し易い局面に入ったと言えよう。

### 3. 所得動向:実質可処分所得は小幅ながら前月から伸びが加速

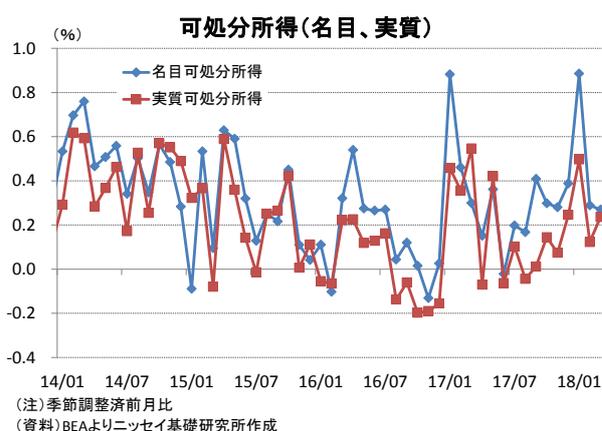
個人所得の内訳をみると賃金・給与が前月比+0.2%（前月：+0.4%）と17年10月以来の水準に鈍化したほか、利息・配当収入も+0.3%（前月：+0.4%）と前月から伸びが鈍化した（図表2）。一方、移転所得は+0.4%（前月：横這い）と前月から伸びが加速した。

個人所得から税負担などを除いた可処分所得（前月比）は+0.3%（前月：+0.3%）と、前月並みの底堅い伸びとなった（図表3）。一方、価格変動の影響を除いた実質ベースは前月比+0.2%（前月：+0.1%）と、こちらは前月から小幅ながら伸びが加速した。

(図表2)



(図表3)



### 4. 消費動向:財・サービスともに伸びが加速

名目個人消費（前月比）は、財消費が+0.1%（前月：▲0.4%）と前月からプラスに転じたほか、サービス消費も+0.6%（前月：+0.2%）と前月から伸びが加速した（図表4）。

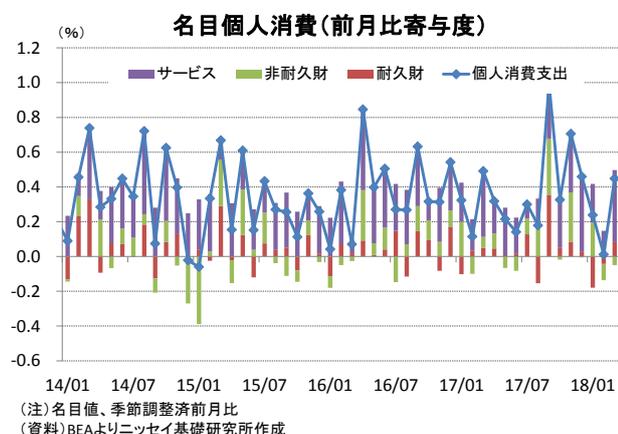
財消費では、非耐久財が▲0.2%（前月：▲0.4%）と前月からマイナス幅が縮小したものの、2ヵ月連続で減少となった。ガソリン・エネルギーが▲4.1%（前月：▲3.2%）と2ヵ月連続で大幅なマイナスとなったことが大きい。

一方、耐久財は+0.8%（前月：▲0.4%）とこちらは3ヵ月ぶりにプラスに転じた。家具・家電が+0.6%（前月：+0.4%）と前月から伸びが加速したほか、自動車・自動車部門が+1.1%（前月：▲2.5%）と前月からプラスに転じた。

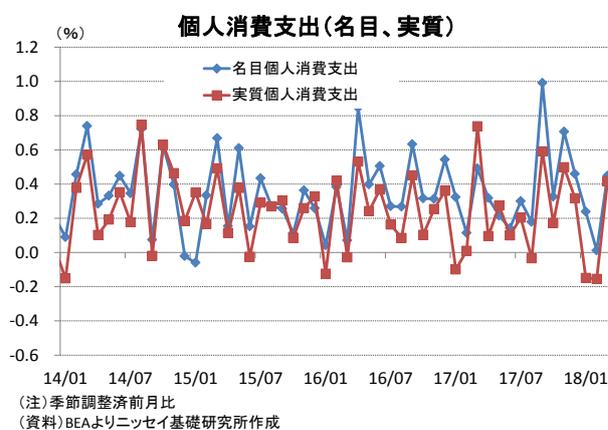
サービス消費では、金融・保険が+0.8%（前月：+1.0%）と前月から伸びが鈍化したほか、娯楽

サービスが▲0.1%（前月：+1.5%）と前月からマイナスに転じた。一方、外食・宿泊が+0.5%（前月：+0.3%）、医療サービスも+0.7%（前月：+0.4%）と前月から伸びが加速した。さらに、住宅・公共料金が+1.2%（前月：▲0.6%）とプラスに転じ、サービス消費を押し上げた。

(図表 4)



(図表 5)

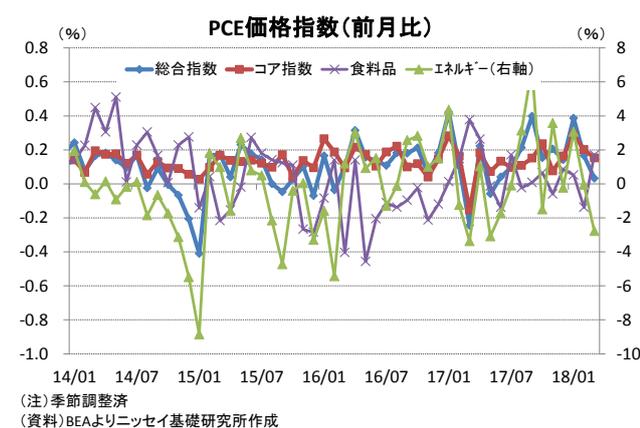


## 5. 価格指数: エネルギー価格は前月比では物価押下げも、前年同月比で物価押上げが続く

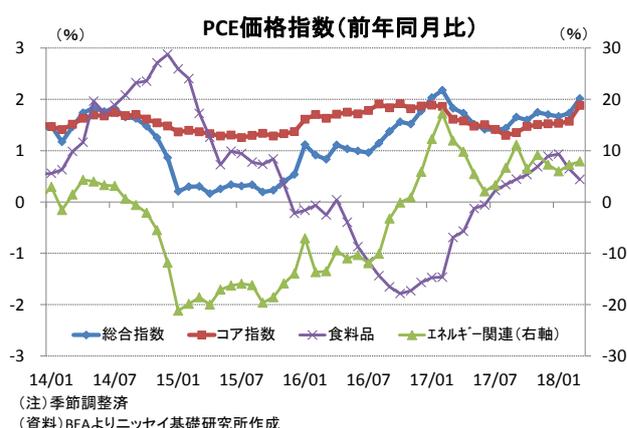
価格指数（前月比）の内訳をみると、エネルギー価格指数が▲2.8%（前月：▲0.1%）と2ヵ月連続でマイナスとなった（図表6）。一方、食料品価格指数は+0.2%（前月：▲0.1%）とこちらは前月からプラスに転じた。

前年同月比では、エネルギー価格指数が+7.9%（前月：+7.2%）と前月から伸びが加速した（図表7）。エネルギー価格は16年11月以降、物価を押し上げる状況が持続している。最後に食料品価格指数は+0.4%（前月：+0.7%）と、こちらも9ヵ月連続のプラスとなっており、物価を押し上げている。

(図表 6)



(図表 7)



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。